



自民・公明岸田政権の 軍備大拡大許さず

憲法生かし、暮らし・ 平和を守る政治をつくる年に

2023年1月

日本共産党大島町委員会

第667号

「島のひろば」編集委員会 電話04992-2-8256・

Eメール・jcposhima@yahoo.co.jp

www3.plala.or.jp/jcposhima/

検索サイトからはJCPOSHIMA
くらしの相談は共産党町議団へ

山田2-3670 橋本2-3614 小池2-931

「うさぎも七日 なぶればかみつく」

今年卯年。

《(ロシア・台湾・北朝

「うさぎも七日なぶれば鮮など安全保障環境の変
噛み付く」ということわ化)それで、なぜ敵基地
ざがあります。「なぶ攻撃能力を持つミサイル
る」は「手でさわる」と(保有)につながるの
か「かまう」意。《どんか。抑止力になるのか》
なにおとなしい者も限度「保有すれば実質的に専
を超えれば怒り出す」と守防衛という基本がなく
いう意味だそうです。なり、憲法9条も脅か

いま、岸田自民・公明

政権が一発2億円から3

億円といわれる射程の長
いミサイル「トマホーク

」をアメリカから50

か、ということを僕は体

0発も爆買するなど大軍
備とそのため増税に突

き進んでいる問題で、自

自分の考える平和を言い

判・懸念の声をあげてい
り伝えていきたい。これ

ます。

からが本番だ」。

古賀誠さん 岸田文雄

河野洋平さん 衆議院議

首相が会長の派閥「宏池
院議長を長く努めた河野

会」前会長の古賀誠さん

洋平さんの発言。(1月

は東京新聞のインタ
ビュー(昨年12月16日
集)《反撃能力という
のは威嚇ですよね。明らか

かに武力による威嚇。武
力を予算化しようとして

いる。どう説明をなさる

のか、私にはわかりませ
ん。政治や外交の努力を

抜きにして、ただ壁だけ

立てていく。壁ならまだ
いいけれども、壁の隙間

から向こうに鉄砲を向け

て狙うというのは本当の
安全だと思わないです」

「日本には、日本の歴史

的な事情、反省に基づい
て、あるいは日本の置か

れている立場を考えて、

やれる範囲、やるべきこ
とをもう少しはつきりさ

せるべきではないでしょ
うか。戦わないために何

をするかということをし
深刻に考えるべきだと思

います」

『あたらしい憲法のはな
し』の「戦争の放棄」の

一節

人ではありませんが戦
後文部省が中学一年生用

に作った教科書。やさし
く憲法を解説したもので

す。「戦争放棄」の一節
を紹介します。

「よその国と争いごとが
おこったとき、けつして

戦争によって、相手をま
かして、じぶんのいいぶ
んをとおそうとしない

ということをきめたので

す」「おだやかにそうだ
んをして、きまりをつけ

ようというのです。なぜ
ならば、いくさをしかけ

ることは、けつきよく、
じぶんの国をほろぼすよ

うなはめになるからで
す」。

「お釈迦様の言葉」
「やさしい」といえば非

暴力・不殺生のお釈迦
げず、もう戦うことを学

ばない。《イザヤ書二
章四節》

《己が身にひきくらべて
殺してはならぬ。殺さ

憲法9条生かし、外交に
徹する日本共産党の提案

いま必要なのは、大軍
東南アジア諸国と協力

拡ではなく、憲法9条を
し、東アジアの全ての国

生かす外交で戦争の心配
が参加する平和の枠組み

のないアジアをつくるこ
を発展させる外交ビジョ

とです。日本共産党は、
ンを提案しています。

国連本部の 聖書のことば

最後に、ニューヨーク

の国連本部広場の壁に刻
まれてある聖書のことば

を紹介します。

《主は国々の間をさば
き、多くの民族に判決を

くだす。

彼らはその剣を鋤に、
その槍を鎌に打ち直す。

その槍を鎌に打ち直す。

国は国に向かつて剣を上

げず、もう戦うことを学

ばない。《イザヤ書二

章四節》

共産党町議団の一般質問

2022年12月議会



山田ただたか議員

新型コロナウイルス感染症第8波対策を

昨年12月の第4回定例会の一般質問で、山田ただたか議員は、教育問題について、

①発達障害を持った子どもたちの発達保障について提案しました。

②不登校の子どもたちの教育権保障。

③中学生の英語の「スピーキングテスト」の見直し・中止を都教委に意見具申するよう求める三点について質問しました。

また、新型コロナウイルス第8波対策についても質問。ここでは、コロナ対策の質問について、一問一答形式で紹介いたします。

山田議員 これまでの個人の感染対策をゆるめないよう町として様々な方法で住民によりかけること。

福祉けんこう課長 引き続き広報おおしま・行政防災無線で基本的な感染防止対策の徹底をお願いしていきます。

山田議員 現在もワクチン接種が行われているが、もっともつと広める必要がある。開発センターでの接種期間が終了しても医療センターでも受けられる体制をつくっていただきたい。

福祉けんこう課長 引き続き来年(2023年)3月31日まで医療センターでワクチン接種を実施します。

山田議員 検査体制の問題はこれまで取り上げてきたが、不安を感じる住民に寄り添った立場でどんな検査体制がベストなのか検討の上実施を。

福祉けんこう課長 発熱・咳き、のどの痛みなどがあれば医療センターへの受診、保健所への電話相談、また事自己調達抗原定性検査キットによる自己検査体制をとっているが、不安を感じる住民は、ぜひ電話等で相談していただければと思います。

山田議員 感染した場合の対応では、発熱外来受診が都区内と異なる点があると思

われるので、大島の行動の仕方を周知する必要があります。保健所や役場からどんな支援が受けられるのかという情報を持っていれば住民の安心感が増えるのでは。

福祉けんこう課長 感染した場合のマニュアルは保健所作成のパンフがあるので今後掲示するなど利用したいと思います。支援内容は9月議会でも回答していますので割愛します。

感染状況の情報発信のあり方については、ホームページ・役場玄関入口に掲示公表しています。が、国や都と連携しているのは、島内の感染状況に応じたメッセージや注意喚起をおこなっていきます。リスクをかかえる高齢者に伝える内容も検討したいと思います。

大島文学・紀行散策

拾遺編

耕平逍遙

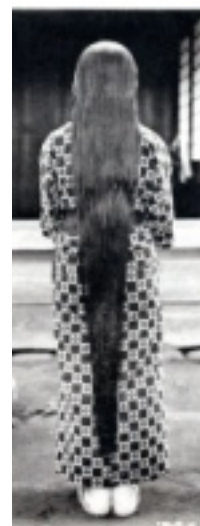
— 童話・書簡・日記を読む

四

4 良 3 孝 5 得 時

「椿咲く島」

いよいよ起承転結の「結」の場面に入る。演劇などという「大団円」を迎える。その場面を引用しよう。



「この話を耳にした天の神様は、島の人々のしんせつなのに感心し、たくさんの椿の木を植えてやりました。そしてその実をしぼって油をとることも教えてやりました。

いわれがあるそうです。気持ちのよい話ではありませんか。」

島の女たちが、その油を頭につけると、いぜんにまさる美しい髪がのびてきました。

「椿の島」のような起源説話は、地名語源を中心に古代から全国に存在する。

大島に椿の木がたくさんあるのは、そして女の髪の毛のうるわしいのは、昔こういう美しい髪がのびてきました。

伊豆諸島関係では、島の神社にタブの木(岡田では「タメ」)が多い理由として、「三宅記・島々縁起」にある伊豆の島々を焼いて(噴火のこと)造ったという天竺の帝王の王子が「タミの実がうまい」と七粒もらって我が家に植えたことからきている由來話がある。



(以下次号)